

2013年末に、14年のレアメタルの年間契約交渉のために欧州を回った。EU圏は、あいも変わらず景気が低迷したままであった。結局、不況のために契約交渉は持ち越しになった。だが、せっかくなので同期の友人の紹介で土日を利用して南イタリアに足を延ばすことにした。

行った先は、靴の形をしたイタリア半島のアキレス腱にあたる部分にある、アドリア海に近いアルペロベッコである。ここにはトゥルッリの教会として有名な、サンタントニオ (Sant'Antonio) 教会がある。トゥルッリとは、お伽話に出てくるようなトナリ屋根の住居で、その家並みが続いている奇観は、世界遺産にもなっている。南イタリアの生活は農業中心で、オリーブやぶどうの栽培と酪農で生計を立てている豊かな土地柄である。

観光ガイドをお願いしたのは、友人の知り合いで、アルペロベッコ近郊のルテイリアーノに住んでいる佳子ソリーノさん。イタリア人男性と結婚した佳子さんは、東京の三鷹生まれだ。イタリア観光をしているときに、ハンサムなイタリア人と出会って結ばれた。彼女のご主人(銀行員らしい)とお義父さん(金融関係らしい)と一緒に運転手も兼ね、丸2日付き合ってくれた。

観光ガイドというよりも、友達感覚で接してくれたので、このあたりの生活がよく見えた。実際に、友達もたくさん紹介してくれて楽しいイタリアの生活に触れること

## AROUND THE WORLD

山師の手帳 第26回 中村繁夫

### アリギリスから見た欧州の南北格差



ができた。そうしているうちに、誰一人として仕事をしている雰囲気がないことに気が付いた。佳子さんによると、失業率はなんと7割というから驚いた。祖先から引き継いだ農地があったり、数百年も続く邸宅に住んでいたりで、あくせく働く必要もなく、贅沢さえ望まなければ素朴で素晴らしい自然に恵まれた生活ができるのだらう。

ただ、南イタリアの生活も最近では先進・北部欧州のライフスタイルに影響されて多消費化が進んでいる。南部欧州の国々が債務超過を余儀なくされている遠因はこんな所にあるのかもしれない。欧州経済の最大の懸案は、このような経済格差である。

別の見方をすれば、南のラテン系国家の生き方に、ドイツなどの工業国家の価値観を持ち込んだ結果として、貧富の差が拡大したともいえる。このようなことは多かれ少なかれ世界中で問題になっている。「世界で最も貧乏な大統領」といわれているウラグアイのムヒカ大統領が、ブラジルでの国連持続可能な開発会議(12年)で「持続可能な発展と世界の貧困をなくすテーマ」に対して語った衝撃のスピーチがある。

「皆さんが目指している大切なこととは、現在の裕福な国々の発展と消費モデルを真似すること、でしょうか? 世界の70億



人の人々がみんなグローバル化の名の下に貧困を脱することなどできません」と強調している。我々は常に豊かな国の経済メカニズムに支配されているが、実際の幸せとはそのような社会ではなく、背伸びをしない独自のもっと単純な愛情や人間関係、子どもを育てること、友達を持つことだと指摘している。

今回、欧州を回ってみて、北部のドイツやフランス、ベルギー、オランダの人たちは経済的には成功しているわりに、何か落ち着きがないように感じた。一方で、経済的には成功しているとはいえないイタリア人のほうが、生活をエンジョイしていた。欧州は北と南で「アリとキリギリス」にたとえられることがある。一所懸命働いて裕福になっても何か満たされない「アリ」と、南イタリアで幸せに過ごしている「キリギリス」たちのどちらが良いのか……。繰り返し問われてきたテーマだ。

わが身を振り返れば、「アリギリス」というスタンスで時と場所、場面で対応を変えてきた。ドイツのやり方をイタリアに押し付けても上手くいかないし、その逆ももちろんなのだと思う。

〔なかむら・しげお〕1947年生まれ。レアメタル専門商社・アドバンストマテリアルジャパン(AMJ)社長。新著に「レアメタルハンター・中村繁夫のあなたの仕事を成功に導く「山師の兵法A to Z」(ウエッジ)。